

行政視察報告書

令和6年8月13日

前橋市議会議長 様

議員 横山 勝彦	議員 阿部 忠幸
議員 小渕 一明	議員 新井 美加
議員 林 幸一	議員 須賀 博史
議員 鈴木 俊司	議員 堤 波志芽
議員 小岩井 僚太	議員 市村 均光

記

- 期 日
令和6年8月6日（火）～ 8月8日（木）
- 視 察 先
岩手県雫石町 岩手県花巻市 宮城県女川町
- 視察事項
雫石町 地域公共交通について
花巻市 起業化支援センター等による地域振興に資する取り組みについて
女川町 復興まちづくり具体的な取り組みについて
- 視察概要
別紙のとおり

岩手県雫石町の地域公共交通

総合政策課長補佐 三輪健

総合政策課副主幹兼係長 櫻田紀子

概要

面積 608.82 km²、人口一万五千百七十六人 高齢化率 40.1%とかなり高い高齢化である。バスは、岩手県交通 2 路線、あねっこバス 5 路線、まちなか巡回バス実証中となっている。基幹産業は農業と観光であり、農業は稲作中心に畜産などの複合経営が多く、日本最大の民間総合農場小岩井農場などがある。バス会社から、平成 16 年をもって町内で完結する 8 路線全ての運行を廃止する申出があった。これに代わる交通手段、新交通システムの検討へ進み様々な議論の末この交通システムを導入することとなった。NPO と地元企業の連携による輸送システムの導入、運営業務を NPO が、運行業務を地元タクシー業務が担う。必要最小限の投資により、実行され今日に至る。雫石駅を起点とし、放射状に 5 路線を設定。路線ごとにダイヤを設定し、予約がない場合は運行なし。運行便数は、平日上下線 4-6 便、土日祝日上下線 2-3 便としている。1 路線内であればどこからどこまでも料金は二百円。令和 5 年 10 月から LINE での予約を開始。令和 5 年度の状況は以下の通りである。年間利用者 14732 人、1 日あたりの利用者数 平日 50.9 人 土日祝日 19.7 人、運行率 52.3%。課題は、利用者の減少、便数の割に運行率が低い、極端に利用がない便や停留所がある事。効果的な運行に向け、5 路線へ統合し、停留所増設、移設を随時行っている。

所感

高齢化が高い町の中で、既存のバス会社から路線廃止の申出があつて、このあねっこバスの開始との流れであつたが、収入が厳しい中でどの自治体でも起こりうる可能性のある事であり、運営主体や運行主体など多くの側面から学びとなった。本市、本県でも MaaS の取り組みを始め、デイサービスの運行業務をタクシー事業所へ委託するなど交通では様々な取り組みが見られている中で、運営と運行の主体が異なる形態の交通サービスは参考になり、雫石町の課題であつた利用者の数は本市でも抱えており停留所や交通ルートははじめ便数においても今後の人口減少やテクノロジーの進展などと共に考えていく必要性を感じた。また、交通は生きがいやりがいを創出するものであり、行政における大きな役割も再認識した次第である。

視察項目 起業化支援センター等による地域振興に資する取り組みについて

講師 一般社団法人ビジネスサポート花巻 片山 裕司

（ 概 要 ）

起業化支援センターは、平成 4 年頃、地域企業向けの調査結果によって、地域企業の「企業城下町」的な経営感覚から「技術開発・コスト感覚・企業競争」分野への意識が若干低く、誘致企業と地場企業で経営面・技術面での乖離が問題となっていたため、地域企業全体の底上げとして「ベンチャー支援」を全面的に打ち出すこととし、経営意識の変革を促すための「インキュベート施設」の構想が出来上がったことからスタートした。運営は一般社団法人ビジネスサポート花巻が行っている。

当法人は、新たな産業の創出及び企業の振興を図るため、総合支援に関する事業を行い、市内企業の発展に寄与することを目的として平成 30 年 3 月 1 日に設立した団体である。業務内容は①花巻市新事業創出基盤施設（起業化支援センター）の管理運営に関する事業、②花巻市内企業総合支援に関する事業、③ジョブカフェはなまきの運営に関する事業の 3 つであり、花巻市商工労政課の委託事業である。

花巻市起業化支援センターは製造業を対象とする入居型インキュベート施設であり、職員体制は常勤 8 名であり各種支援を行っている。各種相談や試験機器・測定器を利用することができるセンターハウスと施設数は 13 棟、施設種類は広さ別に 3 タイプある貸工場が存在する。月額使用料は 53,000 円から 171,000 円。なお、貸工場には入居資格と入居期間が設定されている。令和 6 年 7 月 1 日時点で入居企業は 13 社であり、入居率は 61.9%。退所後の事業継続率は約 70%となっている。また入居者の事業拡大にも備え、さらに広い貸工場も 10 棟整備している。

（ 所 感 ）

前橋市においても起業家支援に民間活力も含め力を入れているが、花巻市のように製造業に特化したものではなく、どちらかといえば小規模かつ IT やサービス業の性質のことが多い。花巻市が製造業に力を入れている背景には、高速道路や空港等、交通の利便性が高い地域であることも要因であるようだ。前橋市には空港はないものの、高速道路付近の利便性が高い地域（城南、清里、南部地域等）は存在する。最初から工場を借り起業することはハードルが高いように感じていたが、下請けとして起業する事例もあることから、前橋市においても工場貸与のニーズ調査を実施した上で取り組むことは、新しい起業家支援として可能性はあるかもしれない。

復興まちづくり具体的な取り組み

令和 6 年 8 月 8 日

宮城県女川町

総務課公民連携室

【復興まちづくり内容】

① 概要

東日本大震災の後女川駅前を中心とした街づくりの実現を目指す

② 取り組み

阪神神戸大震災の教訓を生かし官民連携して街づくりをしている。震災の教訓からエリアを指定し、海に近いところに公園や漁港施設、5メートル上がったところに市街地エリアとして商業施設等、10メートル上がったところに居住エリアに指定した。

特に商店街はテナントを集積させて商業施設だけを集め、居住スペースとは別に展開する。商業施設の中央通路からは初日の出が見られるスポットがあり人気である。

③ 所感

復興後の女川町は海拔 5 メートル 10 メートル 20 メートルと津波対策の一環として段差をつけてまちづくりを行っているようです。震災前からコンパクトシティの実現はされておりましたが震災後の区画整理により一層コンパクトになったそうです。

しかしながら、震災前は 10,000 人あった人口が震災で 1 割減になり、高齢化、町外流出もあり、現在は 5800 人の人口になったとのこと。

それでも当初は半分以下の人口になると言われておりましたが、復興を急ピッチで進めることにより人口減少に止めをかけているとのこと。

震災から 13 年経ちしっかり復興しているところを見るとますます頑張っしてほしいと思いました。